

アリ語、バンナ語の文字化資料とその表記方式に ついて¹

柘植洋一
(金沢大学)

tsuge@kenroku.kanazawa-u.ac.jp

0 はじめに

エチオピアでは 80 以上に及ぶ言語が話されているが、その圧倒的多数は文字で書かれることはなかった。エチオピア西南部南部諸民族州で話されているアリ語およびバンナ語もそのなかに含まれていたが、1980年代からプロテスタントの福音派に属する SIM という宣教団体が文字化への試みを始めた。この 2 言語だけでなく、無文字言語の文字化を担ってきた一つの大きな力はこうしたキリスト教の宣教師達であった。聖書の翻訳を通じて神の言葉を人々に口頭で伝えるだけでなく、書かれた形で更に広めるために、文字化に熱心に取り組んできたのである。その一方文字化への動きの中には政府主導によるものがある。エチオピアでのこの動きは宣教師達の活動に比べてずっと遅く、帝政が倒れ、社会主義体制期に入ってからである。当初は公教育の枠外だけのものであったが、現在は次第に公教育の中に採り入れられつつある。ともに文字化を必要とする、文字化を進めるといっても、その目的は大きく異なっている。また、その両者の関係は言語によっても様々に異なっており、エチオピアにおける言語の文字化を考える上で重要な問題である。しかし、文字化にあたって最も重要なファクターはその言語の担い手の文字化への意思だろうと思われる。この点に

¹ 本稿は科学研究費補助金基盤研究(C)「エチオピアにおける無文字言語の文字化に関する総合的研究(課題番号 19520334 代表者:柘植洋一(金沢大学),平成19年度~21年度)ならびに、同、基盤研究(B)「変容するエチオピア諸言語の静態と動態に関する総合的研究、ならびにデータベース構築」(課題番号 22401046,代表:柘植洋一(金沢大学),平成22年度~25年度)による成果の一部である。

については柘植(2009)でも触れており、筆者は大きな関心を持っているが、本稿ではその問題には直接触れず、基礎的な文字化の現状、特に最近の表記方式の改変に焦点を絞って見ていく事とする。

具体的には宣教団体の文字化の活動の例として筆者がこれまで取り組んできたアリ語と、それに隣接し言語面でも近い関係にあるバンナ語の例を取り上げ、現在までの文字化の進展の様相を明らかにしていく。特に文字表記方式のあり方を軸に見ていくが、まず、それぞれの言語における文字化資料、特に識字に関わる資料について述べる。続いて新旧の文字表記方式のあり方、相違点を明らかにする。柘植(2009)においては、方式の変更に言及したものの、その具体的な内容には触れなかった。また、柘植(2010)では、新表記法についてやや具体的に述べた(p.4f.)が、もっぱら今回は新たに入手したバンナ語資料に基づき、より詳細にその仕組みを検討する。

表記方式の変更がアリ語、バンナ語の文字化の今後に何をもたらすのか、更に進展していくのか、あるいは限られた枠内だけにとどまってしまうのか、本稿がその行方を考える上での一つの材料を提示できればと思うものである。

1 アリ語の文字化

1.1 アリ語の文字資料

アリ語の文字資料についてはこれまでに筆者が入手したもののうち、新約聖書の翻訳ならびに旧約聖書翻訳の一部の原稿を除いた9点について、アリ語、アリ文化に関心のある誰もが参照出来るように、柘植(2010)として簡単な解説を付してコピーの形でまとめて刊行した。これらの資料はA8(民話)、A9(生活改善)を除いて、キリスト教の教えを説くものである。アリ語を文字で書き、読むための初歩の手引きとなるのは、A1、A2のみである。

A1は資料集に収めたものの中で最も早く編まれたものと思われ、1980年代末から1990年頃の刊行と思われる²。A2はA1の後継版と位置づけられる。両者の違いは大きくは内容量の違いと、字体の違いである。字体の違いというのは、A1が手書きであるのに対し、A2は印刷体であるということである。内容量についてはA1が第15課までを

² これらの冊子の多くには刊行年が記されておらず、そもそも実際に刊行されたかも明らかでない。これを1980年代後半～1990年頃と推定したのは、後で述べるようにアリ語の翻訳で中心的な役割を担ったCarolyn Fordの活動開始時期と、筆者がこの冊子のコピーをアジスアベバで入手したのが1990年10月であることによる。

含む 56 ページ（ページが打ってある部分）であるのに対し、A2 は 23 課からなり、60 ページあるという事である。ページ数の割には 8 課分も増えているのは、挿絵の部分を含めて A2 ではレイアウトがすっきりしていることが大きい。内容としては第 12 課までは両者ほぼ同じであるが、その後でずれが生じ、A1 の第 13 課～第 15 課にはあたる部分は、A2 では第 14 課～第 16 課となっている。A1 にはなかった課（内容的には長母音の ii を持つ字形（= 第 3 列³）の導入）が A2 では第 13 課として挿入されている為に、このようなギャップが生まれたのである。A2 の第 13 課は 2 ページもなく、前後を見てみると、第 12 課は 4 ページ、同じく第 14 課も 4 ページとなっていて構成上不釣り合いに思えるが、そこにどんな事情があったかは不明である。⁴

筆者が初めて A1 を入手し内容を検討した際に奇異な感を抱いたのは、この冊子の末尾には文字表と数字の表がついて全体で完結しているように見えるのに、識字目的の為のものでありながら必要な文字が網羅されていないという事であった。すなわち母音については、第 2 列(uu)と第 3 列(ii)が提示されておらず、子音については k, d, n, y, t, r, q, g, m, ʔ, s, h, w, l, z の 15 子音のみが提示されていて、ts, b, s, č, z, j, d, č', p'(b), ts' の 10 子音が取り上げられていないのである。日本語の読み書きを修得する際にまず五十音図を覚えてから先に進むように、全体の構成自体がアリ語の音を一音ずつどう表記するかを最初に全て提示し、その後で単語や文形式で先に進む方式ではないので、ある程度やむを得ないにしてもこれではいかにも中途半端である。実際、各課に載せられている文章にはこれらの音を含む字形は使われているのにその説明が為されていないのである。

A1 が A2 に先行し、内容的に新版である A2 の約三分の二の内容を含む事に疑問の余地はない。では、A2 の残りの三分の一にあたる部分は、A1 とは別の独立した冊子として刊行されていたのであろうか。この点については残念ながらそれを肯定する資料も、否定する資料もない。刊行されていたが筆者にとっては未見であるだけなのか、あるいは A1 を試行的に刊行したところで後半部分の刊行は行わないままで A1 を改訂しつつ A2 の形で全体を出版したのかは、現時点では不明である。後に取り上げるバンナ語の場合を見ると試行版として 2 分冊の形で刊

³ エチオピア文字は五十音図と同様の音節表を持つ。ここで第 1 列、第 2 列というのは五十音図で言う、ア段～オ段にあたる。第 1 列の字形～第 7 列の字形は例えばアムハラ語では、それぞれ ä, u, i, a, e, ə, o をもつ字形のことをいう。

⁴ 図 1 に A1, A2 の同ページ (p.2 と p.3) を示す。

行されおり⁵，それからするとアリ語の場合も同様であったとの想定も可能である。

なお，そのほかにどのような内容のものが何点刊行されたかは不明であるが，現在確認できるものでもう一点，エチオピア暦 1996 年（西暦 2003 年）に作られたアリ語の入門書がある⁶。これは 3 分冊，全 90 課，232 ページからなる大部なもので，上述の A2 を更に発展させたものといえる。文字の書き方から始まり，絵を付した単語のつづりを提示しつつ長文に進んでいくという構成を持つもので，文字の書き順や数詞，加減乗除の表現などの新たに盛り込まれた内容もあるが，全体的な構成自体は A2 を受け継いでいるといえよう。ただ，大きく異なるのは第 3 部の 66 課「アダムとイブ」からは，挿絵も含め内容が聖書からのものになっている点である。この入門書（Ford は primer と呼ぶ）の最終的な目的がキリスト教の布教にある事がここに明確に示されているのが分かる。

1.2 文字表記方式

アリ語の文字表記の試みはキリスト教プロテスタントの一派である福音派の SIM の宣教師によって為された。⁷ SIM の宣教師としてアリ語，バンナ語などの言語への聖書の翻訳，リテラシー・プログラムの作成を中心的に進めてきたのは，Carolyn Ford である。⁸ この試みがいつ頃から始まったかは明らかでないが，Carolyn Ford がアリ人の住むメツェル村に住むようになったのは 1988 年からのことである。この時期，宣教師の活動とは別に，社会主義体制にあつて政府の主導で識字教育が積極的に進められ，取り上げられる言語数も 15 言語へと拡大されていた時期であった。もちろんアリ語はその中には含まれてはいない。

アリ語の文字化にあたって採用されたのはエチオピア文字であった。エチオピアに固有の文字はエチオピア文字であり，アムハラ語やティグリニア語などのセム系の言語だけでなく，新たな文字化にあたって

⁵ 以下の 2.1 に挙げる資料 B1 と B2。

⁶ 現在 Literacy International のサイトからダウンロードが可能である。

<https://www.literacyevangelism.org/resources/materials/primers>

⁷ SIM の宣教師達はオモ系の言語の翻訳にも早くから着手し，1933 年にはウオライッタ語，1934 年にはゴファ語への聖書の部分訳が為された。（Balisky, p.113）。

⁸ Ford は 1985 年に，Ford, Carolyn M., *Report on Aari Linguistic Survey*. (Submitted to Language Academy, Ministry of Culture, Addis Abeba, Ethiopia. December 1985. Mimeographed.) という，アリ語についての初のまとまった報告を発表した言語学者でもある。

はほとんどの言語でエチオピア文字が採用されていた。文字選択の可能性としてはエチオピア文字とローマ字が有ったはずだが、ローマ字ではなくエチオピア文字が採用されたのである。この両者は文字体系として大きく異なっている。ローマ字は言うまでもなく一文字が一子音あるいは一母音をあらわすアルファベット体系であるのに対し、エチオピア文字は CV (= 1 子音 + 1 母音) という音節を単位とする音節文字である。

先にあげた資料もエチオピア文字を使った方式で書かれているが、2005 年に Ford がアリ語翻訳チームから離れ、翻訳にあたる主体が SIM と密接な関係にあるエチオピアの組織である Kaleheywet 教会（略称 EHKC）⁹に移ると、エチオピア文字はそのまま使うものの、異なった表記方式が採用されるようになった。

前節の末尾に挙げた三分冊からなる入門書も含め『アリ語資料集』にまとめた冊子は全て旧方式でつづられており、筆者は新方式による出版物は未見である。ただ、ジンカの町の EHKC のアリ語翻訳チームが推進中の旧約聖書の翻訳のドラフトは新方式が用いられており、その一部を参考に頂くことが出来た（図 3 参照）。新方式への変更は、旧方式で表記された新約聖書がアリ人にとっては読む事が難しく、それを解決するために考え出されたとのことである。¹⁰

2 バンナ語の文字化と文字表記方式

2.1 バンナ語の文字資料 B1～B3

次にアリ語に隣接し同じく SIM が宣教活動を行って来たバンナ語の場合を見てみよう。バンナ語については、識字教育のテキストとして、アムハラ語で በበነኛ፡ቋንቋ፡የተጋጀ፡አንደኛ፡የፊደል፡መግሪያ። 『バンナ語で編まれた第一文字教本』というタイトルを持つ小冊子と、በበነኛ፡ቋንቋ፡የተጋጀ፡ሁለተኛ፡የፊደል፡መግሪያ። 『バンナ語で編まれた第二文字教本』（図 4 参照）というタイトルの 2 つの小冊子がある。これらは全体として የፊደል፡መግሪያ። 『文字教本』を構成し、その第一部、第二部という関係にある。（以下、先のアリ語資料の番号付けにならって B1, B2 と呼ぶ。） B1 は表紙に象の絵が、B2 ではライオンの絵が描かれており、各本文 44 ページ、32 ページとなっている。内容はアリ語の場合と同じく、さし絵（主に動植物、人体）とそのバンナ語のエチオピア

⁹ なお Kaleheywet=qalä həywät はゲエズ語で「生命のコトバ」の意味

¹⁰ 2006 年および 2009 年に行った EHKC のアリ語翻訳チームへのインタビューによる。

文字表記形を出しながら字形を覚えるとともに、短い文が付され、簡単な文法を学んでいくように構成されている。因みに最初は「これは何？ これは何々です。」という疑問文とその答えから始まっている。アリ語の場合と違って長い文章は載せられていない。

B1は第1列、4列、5列、6列の字形が、またB2では第2列、第3列、第7列の字形が提示されており、子音についても全てが網羅されている。従って少なくともエチオピア文字でバンナ語を表記する方法についてはこれで学ぶ事が出来るのである。

これらが識字教育のために作成されて事は間違いないが、表紙に「これは試行的に刊行するものである。意見があれば翻訳チームまでお寄せ願いたい」旨の記述があり、文字もアリ語の旧版と同じく手書きである。これに続いてこれらの新版あるいは更に進んだ内容を持つものが出されたかどうかは不明である。まだ実際にこれらをテキストにしてどの程度の識字教育が行われたかは全く調査が進んでおらず不明である。

更に、上記2書と全く同じ文言で試訳であると断り書きされた、アムハラ語でከመጽሐፍ፡ቅዱስ፡የተጠረጠ-ቲ፡ጥቅሶቻ፡በበካኛ።『バンナ語による聖書からの選文集』と題された57ページからなる冊子がある。(これをB3と呼ぶ) これは文字通り新約聖書からの抜粋を集めたもので、エチオピア文字はタイプ印刷されており、用いられている表記法は先のB1, B2と同じである。(図4参照)

以上B1, B2, B3にあらわれている単語と表記の方法を検討してみると、その方式はアリ語の旧方式と全く同じである事が分かる。

2. 2 資料 B4 (バンナ語辞書)

エチオピア暦2001年(西暦2008/2009年)に122ページからなるバンナ語初の辞書が刊行された。(図5参照) 編者名は記されていないが、バンナ人の村AldubaにあるSIM Banna Language Literacy Projectによる旨の記載があり、上述のCarolyn Fordを中核とする人々の手によるものである事は明らかである。¹¹

この辞書は序文(バンナ語, アムハラ語, 英語), バンナ語文字表, バンナ語概観(英語), バンナ語表記法(英語), 略号表(英語, バンナ語, アムハラ語)に続いて辞書本体(バンナ語→アムハラ語, 英語)

¹¹ 先のアリ語の小冊子, また本冊子の入手にあたっては京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科の重田眞義教授ならびに金子守恵氏にお世話になった。記して感謝申し上げる。

がおかれ、最後にアペンディックスとしてバンナ語文法概説（英語による）が付されている。辞書本体のエントリーの中核部分は、①エチオピア文字表記によるバンナ語形、②ローマ字による①の転写、③品詞名、④アムハラ語の訳語、⑤英語の訳語となっている。見出し語数は約 22000 語におよぶ。オモ諸語については一部の言語を除いて辞書や文法は編まれておらず、本書は非常に重要な意味を持つ出版物である。

序言につづいてエチオピア文字の文字表と同じ体裁のバンナ語の文字表が示されている。これは先の識字テキスト（B1+B2）の文字表と比べてみると一目して違いが明らかである。B1+B2 は、横は母音の違いに応じた 7 つの列から成り、縦は子音の違いに応じた 28 行という基本的にエチオピア文字表と同じ構造をもっているのに対し、辞書の文字表は横 11 列×縦 31 行となっている。（図 6、図 7 参照）新たに付け加わった注目すべき子音字はህであり、これは軟口蓋鼻音をあらわす。またアムハラ語ではአと異字体（=どちらの字を使っても同音）の関係にあるዐは、長母音標識の役割のみを担う文字として使われることとなった。¹² バンナ語表記法'Writing Banna'というセクション（pp.7-11）では、バンナ語音声のレパートリーとその簡単な説明、およびそれらのエチオピア文字での表記法についての説明がなされている。なお、p.10 には子音のレパートリーが載せられているが、放出音の ኃ が抜けている。

以上の文字表と表記法の説明に基づいた新しい表記方式は、筆者が EHKC の翻訳グループから話を聞きそこで見せていただいた旧約聖書翻訳にあたって採用された方式アリ語の旧表記法と新表記法と全く同じであることが分かる。

3 エチオピア文字による 2 つの表記方式（旧方式と新方式）

3.1 オロモ語表記（オネシモース方式）

エチオピアのセム系以外の言語で、最も早い時期に文字化がなされたのはアムハラ語話者以上に多くの話者を持つクシ系のオロモ語である。オロモ語の場合も選ばれた文字はエチオピア文字であった。オロモ語はエチオピアのセム系の言語とは異なり、5 短母音と、それに対応する 5 長母音の計 10 母音からなる体系である。また、子音のレパー

¹² 以下 3.3 で詳述する。なお、本来 አ は声門閉鎖音 [ʔ] を、ዐ は有声咽頭摩擦音 [ʕ] をあらわす文字であった。

トリーも若干異なる。

詳しくは他に譲るが¹³、19世紀末に始まったエチオピア文字によるオロモ語表記は、一定程度の広がりを見せた。その際に用いられた方式では、子音については、オロモ語にあってアムハラ語に無い子音は新たな字形を作り出すことが行われた。¹⁴また、母音については、10母音を七つの字形に振り分けることが行われた。その方式は次の通りである。

	1列	2列	3列	4列	5列	6列	7列
アムハラ語	ä	u	i	a	e	ə	o•
オロモ語	a	u/uu	ii	aa	e/ee	i	o/oo

この方式を考案したのは、オロモ人でキリスト教の宣教師であった、オネシモース・ナシーブであった。オネシモースが、どのような理由から、こうした方式を考案したかは明らかではない。母音についても、子音の場合同様に新しい字形を考案する方式もありえるが、そのような方式はとられなかった。

オネシモースの方式は、7母音体系に適したエチオピア文字を異なる母音体系を持つ言語へ適用した点で画期的なものであった。さらにその方式が約100年にわたって用いられたという点でも大きな意味を持つものであった。この方式は、十分に標準化されなかったものの教会関係出版物だけでなく、特に社会主義期になると多くのジャンルにわたるものがこの方式で書かれるようになった。しかしながら、10母音を7つの字形に振り分けるのはそもそも無理があり、実際にこの方式で書かれたオロモ語を読むことはかなり大変な作業であった。しかし、新たに採用されたローマ字による方式では、少なくとも読むという点において困難さはほとんど感じられないようである。

オネシモース考案になるこの方式でもう一つ重要な点は、この方式が一つの模範となり、他の多くの言語にも採用されたということである。これまで文字で書かれる事の無かったクシ系、オモ系の言語の文字化にあたっては多くの場合この方式が採用された。ただし、オロモ自体は1990年代中期になるとエチオピア文字を捨てて、ローマ字が全面的にそれに取って代わった。

¹³ Mekuria(1995), 柘植(2009) p263ff.参照

¹⁴ 例えば[d]をあらわす字形に若干の変更を加えて、入破音[d̥]の字形が新たに作られた。

これは基本的にはローマ字を使う事により、母音、子音の全てのレパートリーを書き分ける事、また子音の *geminatio* も同一子音字の繰り返しで示す事が出来るからである。しかし、その際オロモ語での文字の変更はその文字が象徴するアムハラ人支配への抵抗とそこからの決別を意味するものでもあった。ただ、ローマ字への移行の動きはアファル語やウオライッタ語でも見られているが、これらの言語の場合にはオロモ語の場合ほどには、ローマ字がそれぞれの民族のナショナリズムのシンボルとなっているとまでは言えないようである。

3.2 アリ語、バンナ語の旧表記方式

アリ語は5つの短母音と5つの長母音からなる10母音体系である。この母音体系を過不足なく表記し分けるには、エチオピア文字は適切ではない。なぜならば、エチオピア文字は7母音体系をもつ言語の表記のために作られたものだからである。しかし、エチオピアの諸言語の文字化にあたってエチオピア文字がまず選択対象となるのは、ある意味当然であった。エチオピア文字は2000年に及ぶ歴史を持ち、エチオピアにおける唯一のネイティブの文字体系だからであり、またゲエズ語やアムハラ語以外の言語を文字表記する場合のモデルとして上記のオネシモース方式があったこともあげられる。

オネシモース方式の母音表記は大きい問題を含むことは既にみたとおりであるが、部分的にはその方式にも利点がある。すなわち、アリ語やバンナ語がアムハラ語形を借用する場合、アムハラ語のシュワーは *i* で取り込まれるのが普通であるが、この点からすると、アムハラ語で母音シュワーを持つ字形（第6列）がアリ語やバンナ語で母音 *i* の表記に使われることは理にかなっているといえるであろう。（例：アムハラ語 *kəbrit* ‘マッチ’ はアリ語で *kibriti*, バンナ語で *kibrit*）

3.3 アリ語、バンナ語の新表記方式

母音表記についてこれまでのシステムと最も大きく異なるのが、第4列である。旧方式では第1列 *a* : 第4列 *aa* という書き分けが為されたが、新システムでは第4列は長母音 *aa* ではなく、短母音 *a* の表記に用いられる事となったのである。その結果、後述するように第1列の字形は使われない事となった。

ここで、短母音と長母音がどのように書き分けられるか（あるいは旧方式では書き分けられないか）をみてみよう。以下子音 *l*（エル）を初頭子音とする字形で比較してみる。B1 と B4 で同じ母音がどのよ

うに違って表記されるかが分かるだろう。

	B1	B4		B1	B4
a	ᐱ	ᐱ	aa	ᐱ	ᐱᐱ
i	ᐱ	ᐱ	ii	ᐱ	ᐱᐱ
u	ᐱ	ᐱ	uu	ᐱ	ᐱᐱ
e	ᐱ	ᐱ	ee	ᐱ	ᐱᐱ
o	ᐱ	ᐱ	oo	ᐱ	ᐱᐱ

例として同じ語形がどのように異なって表記されるかを実例から見る。

lama	‘2 (数詞)’	B1	ᐱᐱ	B4	ᐱᐱ
laale	‘ガゼル’	B1	ᐱᐱ	B4	ᐱᐱᐱ

(図 8 参照)

第 1 音節をみると短母音 a を持つ la と、長母音 aa をもつ laa のつづりの違いが分かるであろう。この方式を採用することで、10 母音を全て書き分けることができるようになったのである。

ただ、この方式ではエチオピア文字体系において本来基本形である第 1 列の形は使われなくなった。歴史的に見ると、エチオピア文字は成立時にはこの第 1 列にあたる字形のみであり、4 世紀になってこの字形に横線や小さい丸を付加するなどして他の第 2 列から第 7 列までの字形が作られたのである。またアムハラ語の場合には第 1 列で表される母音の頻度が最も高い事もあり、新表記システムで記された文章は見た目にはかなり特異に映る事も確かである。このように新方式での長母音の表記法はエチオピア文字表記の流れからすると、ある意味奇異な感じを抱かせるものである。しかし、日本語表記と比べてみれば、例えば「おかあさん」(お母さん)や「とおい」(遠い)といったような日本語の平仮名を使う場合の長母音表記方式と基本的に同じである事が直ぐに分かるであろう。¹⁵

ところで、大きな流れとして存在するローマ字化に踏み切らず、使用する文字はエチオピア文字というこれまでの枠を保ちながら、その中で新しい表記法に拠ろうとしたのは何故であろうか？ 新しい表記法では母音の問題は解決された。子音については、これまでは C と Ci が表記上は区別できなかったが、これまでのエチオピア文字の第 6 列の文字を C 専用にする事で、解決が為された。しかし、C か CC かとい

¹⁵ 片仮名の場合のように母音の種類にかかわらず「カーブ」や「ホース」のように常に音引き (ー) で長音であることを示す方式は採用しなかった。

う子音の重複についてはこれまでのように、当該子音が単一子音か重複子音かは表記上区別されないままであり、この点の解決は図られていない。またバンナ語ではトーンの区別があるが、これも文字表記には反映されないままである。¹⁶

子音表記を少し詳しくみていくと、旧方式の段階で、既にオネシモースによって考案された入破音を表す新しい字形が使われたが、更にバンナ語やアリ語の子音表記にいくつかの工夫が凝らされた。アムハラ語ではsを表す異字体の関係にあるሰとሠという2種類の文字のうちሠが、アリ語やバンナ語のtsを表す役割を持たされるようになった。また、バンナ語の新方式では新しく軟口蓋鼻音を表記する字形が導入された。¹⁷ ただし、このጥという字形は全く新しく作られた字形ではなく、アムハラ語ではhをあらわす3つの異字体(ሀ, ሐ, ጥ)のうちの一つなのである。バンナ語表記においてhは一種類の文字(ሀ)に限定し、それによって余る2種類の字体のうちの一つを別の音の表記に採用したものである。この字形は歯音鼻音nをあらわす字形ነに似ているので、同じ鼻音ということでこうした選択がなされることになったのだろう。あるいはまた、この字形はゲエズ語では軟口蓋摩擦音の表記に用いられたので、調音点が同じという理由で選ばれたのかも知れない。しかし、これは歴史的、また音声学的観点からの説明であり、アムハラ語を勉強したアリ人やバンナ人にとってはあくまで本来はhを表す文字として認識されているはずである。この点が読み書きする上で大きくないとはいえ障碍になることが十分考えられる。

4 おわりに

様々な方式が検討された結果ここで新方式と呼ぶシステムが採用された訳であるが、アリ語やバンナ語におけるこのような新方式は、果たして容易に受け入れられるものであろうか。公的な教育を受けたアリ人はアムハラ語の文字表記に慣れている。こうした人々にとって、新しい方式はどのように受け入れられるのであろうか。字形そのものはエチオピア文字であるものの、その仕組みはアムハラ語の場合とは大きく異なっており、文字表の配列もこれまでにはなかったものである。読む事が困難であるとの理由から導入された方式であるが、果たしてその役割を十分に果たすことが出来るのであろうか。上述したようにローマ字方式が拡大しつつあることを考えると最善の選択であっ

¹⁶ 資料 B4 の p.8f.参照。

¹⁷ ハマル語でのこの子音の位置づけの問題については、高橋(2009) p.108 を参照。





たかどうかやはり疑問が残る。もちろん文字表記法は単に音声をどこまで忠実に書き分けられるかという問題だけではないからであるので、ローマ字表記が最良である等とここで主張するものではない。やはり、この方式をどこまでアリ人に浸透させられるかに一重にかかっているのである。それには克服すべき問題が大きくのしかかっている。まずは、キリスト教（プロテスタント）の枠を如何に越えられるかであろう。しかしそれ以上に、筆者には現在のところ、アリ人の中に自分たちのコトバを書こうという積極的な動きは熟成していないように見える。今後の進展を見守っていきたい。

【参照文献】

- Balisky, E. Paul (2009), *Wolaitta Evangelists: A Study of Religious Innovation in Southern Ethiopia*. Pickwick Publications.
- Mekuria Bulcha (1995), 'Onesimos Nasib's Pioneering Contributions to Oromo Writing' in *Nordic Journal of African Studies* 4(1): 36-59.
- 高橋洋成 (2009) 「ハマル語の基礎語彙, ならびに動詞形態の考察」
乾秀行 (編) 『オモ・クシ系少数言語の調査研究及び地理情報システムを用いたデータベース構築 (Cushitic-Omotc Studies 2008)』 pp.107-138.
- 柘植洋一 (2009) 「文字は誰のものかーエチオピアにおける諸言語の文字化をめぐって」梶茂樹・砂野幸稔 (編著) 『アフリカのことばと社会』 (三元社) pp.249-279.
- 柘植洋一 (2010) 『アリ語資料集』 私家版 (科研報告書)

图1 アリ語資料A1 (上) とA2 (下) の第1課

አበንት 1

 ከ ከሥም  ክ ክላ
 ቀ፣ ቀካሽ  ቀ፣ ቀፊል


ከሥም	ቀካሽ	ቀ	ክላ	ቀፊል	ክ
ከ	ቀ	ከ	ክ	ቀ	ክ


ቀ	ቀካሽ	ቀ	ክ	ከ	ክ
ቀካሽ	ቀፊል	ቀ	ክላ	ከሥም	ከ


ቀ	ከ
ቀ	ክ


ከ	ክ
ቀ	ቀ

ቀፊል ቀቆ? ቀፊል ቀካ።
 ቀካሽ ቀቆ? ቀካሽ ቀካ።
 ከሥም ክላ ቀቆ? ከሥም ክላ ቀካ።


 ከሥም ክላ ቀቆ?
 ከሥም ክላ ቀቆ።
 ቀፊል ቀቆ? ቀፊል ቀቆ።
 ቀካሽ ቀቆ? ቀካሽ ቀካ።





 ከሥም ቀቆ? ከሥም ቀቆ።
 ከሥም ክላ ቀቆ።
 ከሥም ቀካ።





ከሥም ክላ ቀቆ? ከሥም ክላ ቀካ።
 ከሥም ቀቆ? ከሥም ቀቆ።



ኤሳት 1

 ከ: ከሥም  ከ: ክላ

 ጸ: ጸካሽ  ጸ: ጸልሽ

ከሥም	ጸካሽ	ጸ
ከ	ጸ	ከ


ክላ	ጸልሽ	ከ
ከ	ጸ	ጸ

ጸ	ጸካሽ	ጸ
ጸ	ጸልሽ	ጸ

ከ	ከሥም	ከ
ከላ	ከሥም	ከ

ጸ	ከ
ጸ	ከ

ከ	ከ
ጸ	ጸ


 ከሥም ክላ ጸቆ?
 ከሥም ክላ ጸቆ።
 ጸልሽ ጸቆ? ጸልሽ ጸቆ።
 ጸካሽ ጸቆ? ጸካሽ ጸካ።



ከጸት

 ከሥም ጸቆ? ከሥም ጸቆ።
 ከጸት ከሥም ከጸ።





ከሥም ክላ ጸቆ? ከሥም ክላ ጸካ።
 ከጸት ጸቆ? ከጸት ጸቆ።

2

图2 アリ語新表記方式による資料 (旧約聖書ヨブ記冒頭試訳)

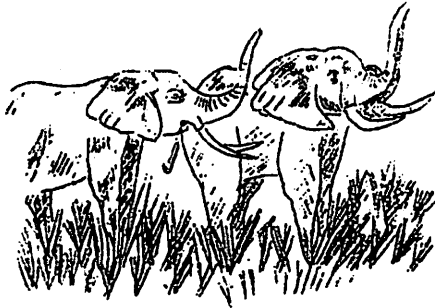
ሊዮብ ማጻፃፕ

አርድንት

ሊዮብ ማጻፃፕግር ሃፃፎርሳክ አቴና ሴቕርኬ ካልምክ ደዜን ሃገሻቻብ ላቕምባብ ኤድ ያላቕባብነን ኪዝድንደ። ኤሥን ኮሮና
 ደንሥይንታምኬ ቕልቴይንት ማም ባሸርንትክ ላብንጻ ጋላሼንጻ ዲዲድ ዜንከት ዉሥካ ሃፎርሼ፤ ኮሮት ቡዑር እክ ኪዳዝ
 ካምድንጻ ራይ ማኬን ጳቕሸክ ሊዮብኪ ሊዮብት ቢዳሥሸኪላ ኮሮ ጋላሻ ሴቕምንገሮክ ዱን ኤብምላቻኪታም ኪዳዝላቕኪ፤
 ማቕንቴዚፊ ላፃቢ ሊዮብካን ኮሮም ጻዉላቕ።

图3 バンナ語資料 B1 (左) と B2 (右) の各表紙

በበኔኛ፡ የፋዘጋጃ
ክንዲኛ፡
የጌዲሐ፡ መመገቢያ።



በበኔኛ፡ ቋንቋ፡ የተዘጋጀ፡
ሁለቱኛ፡
የጌዲሐ፡ መመገቢያ።



图4 バンナ語資料 B3 (新約聖書ルカ書 1:26-27)

በርሱ ተባኝ ኢፊደኛ ፡፡

1

ሉቃስ ፈጻሚን ፈጠረን ፡፡ 26-38 ፡፡

26-27 ገብረጌ ሀዎሌዓ በድርጉስ ኦርጌና በድር

ከጌ ዳፊ ፡፡ በድርግ ገሊሰ ፊን ናዘረት ገርፈንቲ ደጎ

ዳፊ አገዘን በሉን ዘር በዓዎ ይአበከሌ ፡፡ ከኛ ዳፊ

አገዘኛ ዓቢፍ ሀዎሌዓስ በባዶኛ ፡፡ ከኛ ናብኖር

ጣር ዓዎኝ ፡፡

图5 バンナ語資料 B4 の表紙

ባኔ አፖቤዔ ጋዓል አፖቤዔ
ፓራገጂ አፖቤሳ ማግግፕ

ባኔ አፖቤዔ ጋዓል አፖቤዔ
ፓራገጂ አፖቤሳ ማግግፕ

በኛ - አማራኛ - እንግሊዝኛ
መዝገበ ቃላት

በኛ - አማራኛ - እንግሊዝኛ
መዝገበ ቃላት

Banna - Amharic - English Dictionary

Banna - Amharic -
English Dictionary



አልፋባ ኢበ አይ ኤዎ
ባኔን አፖገሳ ቡሊገ ለኛ

2001 ዓ/ም

